

無題

山城25回 有志一同

山城二十五期。激動の七十年代の幕開の年に入学しました。在学中の出来事を振り返って見ますと、入学直前の「よど号」事件、日本で初めての万博が大阪で開幕、七十年安保、ニクソンショック、札幌冬季オリンピック、日中国交正常化などがあげられます。

時代が日本だけでなく、世界的にも大きく変わって行きました。その変動は、思春期の我々にも大きな影響を与えたようです。さまざまな騒ぎを起こし、先生方をなやませた年代でした。三中・山城の長い歴史の中でも最悪の年代だったのでは……。二年の修学旅行で、行く前から服装のことで、先生方と衝突、途中で数名が帰ってしまう事件、爆竹騒動をきっかけに起きた、二年と三年の乱闘騒動、内規問題、ハンスト騒動、この一連の騒動で、二学期の前半はほとんど授業が無く、全校集会がしょっちゅう開かれていたと思います。今思えば、先生方の我々へ

の思いと、我々の常識との違いが埋まらなかった。お互いにもう少し冷静に話し合えば、理解出来たのでは・・・上級生との確執も、三年の二学期といえば、就職や受験で最も神経がピリピリしている時期に、色んな騒動を起こされたら、頭にきまずよね。本当に迷惑な下級生だったと思います。平成十六年十二月二十三日に卒業以来初めての同窓会を開催しました。その席上、先生の方から、本当にどうしようもない年代だったと言われました。返す言葉がありませんでした。そのとうりだと思います。我々の人生においても、本当に刺激的な三年間でした。当時、三無主義と言う言葉がささやかれ始めていました。しかし、我々二十五期は、無関心・無気力・無感動では、ありませんでした。色々な事に興味を持ち、色々な事に疑問を感じたから、先生方や上級生、同級生とも考え方の違いから衝突したのだと思います。ただ、今思えば、義務を果たさず、権利ばかりを主張していたような気もしますが・・・先生方、先輩方、後輩達、本当に迷惑な二十五期を許して下さい。二十五期の多くが反省していると思います。この場を借りて、お詫びいたします。大変申し訳ありませんでした。二十五期も、もう五十歳を越え、職場、地域の中心として、元気で活躍しております。これからも、「正義」「真実」「責任」を胸に、頑張つて行きたいと思っています。